



大西脳神経外科病院だより 第35号

ぶれいん

発行日：平成30年6月吉日

発行人：学術図書委員会

大西脳神経外科病院

編集責任者：吉野 孝広

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊重した医療を実践する。

神経疾患の専門的・高度医療を実践する。

常に新しい医学の修得に励む。

救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

地域の医療機関との連携を密にし、地域協力型の医療を志向する

新入職者を迎えて

大西脳神経外科病院 理事長・院長
大西 英之

「サイエンス」「アート」 そして「ヒューマニティ」を



本院のシンボルマークは人間の左の脳を中心溝とシルビウス溝とで三つに分けそれぞれ前頭葉、頭頂葉、側頭葉後頭葉をモチーフとして、病院理念である「サイエンス」と「アート」、「ヒューマニティ」を表しています。

とです。最後は「ヒューマニティ」、人間愛、人道、ということです。我々は病気を治すのではなくて病気を持った人間を治療するんだということを肝に銘じておかなければなりません。そしてそこには人間愛をもって接する必要があるということです。こういった思いをこのシンボルマークに託し作りました。



まず「サイエンス」、これは科学的な医療、エビデンスに基づいた治療でなくてはならないということです。そして「アート」、これは芸術という意味ですが、我々が医療を行う上で従事者が持つ技術が重要になります。それが芸術の域に達することができるよう日々研鑽が必要だというこ

組織の在り方とは

新入職の方の大半はこれまで、利益を求めない家族や友人により構成された自然発生の組織、ゲマインシャフト（共同社会）という組織形態に属していました。クラブ活動やサークルがその代表的なものです。ルールも存在しません。しかしこれから所属する組織形態はゲゼルシャフト（共同体社会）と言い共通の目的を持ったものが集り、その目的を成功させるための組織です。病院もその一つです。

このゲゼルシャフト共通社会（利益社会）には契約が存在します。病院や会社によってルールが定められ仕事をし、その対価として給与が発生します。皆さんは病院というゲゼルシャフトに身を置き自分の労働や技術を提供する代わりにお金をもらいます。未熟な技術では給与に値しないこともあるということです。クラブ活動の延長のようにはいきません。共通の目的を持った職員同士がお互いを認め協力し高い技術が提供できるようにならなくてはなりません。

「強くないと生きていけない、やさしくないと生きる資格がない」という有名な言葉があります。お互いが相互に助け合いながら、医療従事者として技術と知識を高めそして何よりも人間愛をもって患者様やスタッフと接することが大切です。若い皆さん方はこれから多くの夢や希

望をもってその可能性にチャレンジしていくわけですが、日々研鑽なくして達成できることはありません。そのためにはまず自分の今後は明確なビジョンとして描く必要があります。5年後、10年後の自分の人生設計をするとよいと思います。

これからの人生において一日24時間のうち、病院で働く時間が最も多くなります。それが楽しい時間でなければ長続きしません。ワクワクする希望に満ちた職場であることが大切です。そのためには我々も含め皆さん方と協力し合い、より良い職場になるよう切磋琢磨する必要があります。そういった職場創りを共にしていきましょう。

御入職おめでとうございます。そして、入職していただきありがとうございます。

4月に入職された方は1ヶ月を経過し、オリエンテーションを終え通常業務に組み込まれた頃だと思います。日々の業務の流れに同調できるまでは精神的負担が大きく、そろそろ疲れが溜まってきている頃ではないでしょうか。学校を卒業したばかりの新社会人の方は、特にそうかも知れません。まずは集中して日々の業務に取り組み、少しでも早く自己の能力を発揮できる体勢を整えて下さい。煩雑な業務をひたすら覚えるのではなく、できるだけ質問をし、なぜ、そうするのかを理解するよう努めてもらえたいと思います。そして違和感を持った時には確実に報告をしましょう。

また、各人の所属部門の業務手順を身につけると同時に、病院全体の運営方針と手順を理解する必要があります。当院は、急性期の脳神経外科単科病院としては規模がかなり大きくなっています。検査や手術数は、同程度のベッド数の他院と比較し明らかに多いです。このため流れ作業のように物事が進んでいきますが、それぞれが高度に専門的な内容となっていることが多く、十分な理解がなければとんでもない事態を招く可能性があります。各部門同士の業務が重複する事柄も少なくはないので、各人の所属部門の業務の完結のみならず、入院から退院まで、あるいは外来受付から会計までの全体の動きを理解してほしいと思います。

目の前の木を一生懸命に育てると同時に、そこから広がる森の状態とバランスを意識することで円滑な運営となり、アクシデント発生の防止と良質なサービスの提供につながるものと考えます。日々の業務に勝ちも負けもありませんので、誰とも張り合う必要はありません。大きな木と小さな木の両方が育つことで美しい森になります。皆で助け合い、より優れた居心地のいい病院を作っていけるよう力を合わせていきたいところです。

新入職の皆様へ

副院長 児玉 裕司

平成三十年度 入職式・研修



春の陽気に誘われ、桜が満開になった四月二日、月曜日。
新入職員二十八名の入職式が執り行われました。
大西院長から祝辞と辞令交付を受け、肅々と式が進みます。
みなさん緊張の面持ちの中、改めて頑張ろうと思ったのではないのでしょうか。



講師と新入職員の皆さん



入職式の後には、オリエンテーションと研修です。
「社会人としての心構え」を中心に、職種を超えて活発に意見交換が行われました。学びの深い、楽しい研修となりました。

チームの一員として働く意味を
考えることができました。

4月18日(水)、舞子ビラで新入職歓迎会が開催されました。新たな仲間の門出を祝うため沢山の職員が参加し、盛大な会となりました。

見渡すと、新入職員を中心に輪ができて会話が弾んでいます。仕事中にはまた違う笑顔が眩しく、親睦を深める良い機会となりました。医療現場では互いの協力が不可欠です。連携をとり、全人的な医療を提供できるよう初心を忘れず高め合っていきましょう。



大西院長と新入職者の皆さんでパシャリ



新入職歓迎会



Voice of new employee

新入職員の声



4月に入職した7名の方に、現在の思いや抱負について聞いてみました。
皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

出身は大阪府茨木市で実家暮らしの期間が長く、3年目に母校近くで一人暮らしを始めましたが、大阪北部から出た経験がほとんどありませんでした。今回初めて出身県外で生活を送りながら勤務させていただくことになりました。実は初めは非常に不安で、生活していても心細さを感じることもありましたが、噂どおりの忙しさと職員皆様の温かさのおかげで今は心細さを感じることもなくなりました。

私が脳神経外科医を志したのは、脳の機能解剖に興味があり、腫瘍摘出などにおいても機能やそれによる今後の患者様の人生を考慮しながら摘出範囲を決定していく手術が、他の外科学と一線を画すと感じたからです。知識、技術ともにまだまだ未熟であり皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、懸命に勉強させていただきますので今後ともよろしくお願いいたします。

4月からお世話になっております小坂 拓也と申します。医師として働き始めて今年で4年目になります。母校の大阪医科大学附属病院で2年間の研修生活を送り、脳神経外科学教室に入局後1年ほど勤務しておりました。



医務部 脳神経外科医
小坂 拓也

四月に大西脳神経外科病院に入職し、社会人として大きな一歩を踏み出しました。昨年臨床実習で当院にお世話になり、その時先生方の知識、技術に感銘を受けこの病院で働きたい、先生方のように患者様を笑顔にできる治療者になりたいと強く思いました。そして院内だけではなく院外での学会や勉強会にも積極的に参加されており、学ぶための環境としては非常に恵まれていると思います。普段の業務から、気付いたことやわからないことがあれば自分で調べ、先輩方にも助けてもらいながら早く1人前の理学療法士になれるよう日々取り組んでいく所存です。勉強会や学会にも積極的に参加し、知識、技術ともに向上させ患者様に笑顔で退院してもらえるよう頑張りますのでご指導よろしくお願いいたします。



リハビリテーション科
理学療法士 尾西 竜輝



リハビリテーション科
理学療法士 宮本彩花

私は、大西脳神経外科病院に入職し、社会人としての1歩を踏み出しました。当院には臨床実習でお世話なり、その際に先生方の治療技術・豊富な知識に衝撃を受け、私もここで学び、技術・知識を身につけたいと思い入職をさせていただきました。病気を発症され間もない状態で不安や、今の病態を受容出来ない患者様に限られた時間で少しでも効果的な治療ができ、そして患者様・ご家族様の気持ちを汲み取ることができる優しさを持った理学療法士を目指したいと思います。まだ分からないことばかりですが、まずは社会人として自立し、日々の自己学習、先輩方からのご指導、患者様から学ばせていただけることを大切にし、努力していきます。



大西脳神経外科病院に入職し、数月経過しました。最初は右も左もわからないような状態でしたが、先輩方に丁寧に教えていただきながら、病棟での勤務の流れにもやっと少し慣れてきたところです。日々学ぶことが多く緊張の連続で、付いていくのが精一杯ですが、学ぶほどに脳神経外科における看護の奥深さや面白さを感じています。

そして、何より術後に症状が軽快し、患者さんやそのご家族と一緒に喜ぶことができたときはとてもうれしく、私も頑張ろうという気持ちになります。急性期の脳神経外科について深く学ぶことのできるこの環境の中で、早く一人前の看護師となり、皆さんのお役に立てるようこれからも学習と経験を重ねていきます。



北館2階病棟 看護師
植田 沙彩



北館3階病棟 看護師
阿波 桂子

看護師の資格を2年前に取得し、他院で勤務していました。私の周囲では脳血管疾患を患っている人が多く、脳血管疾患についてもっと学びたい、知識、技術のスキルアップもしたいと考え転職を決意しました。私が配属された北3階病棟は、回復期リハビリテーション病棟で、患者様は様々な障害を抱えながら社会復帰に向け日々リハビリに励んでいます。私は、患者様が少しでも安心してリハビリに取り組める環境を整えていきたいと思っています。そのためにも、早く他部署の方々とのコミュニケーションを図り、チームとして連携できるように努めます。今後、患者様一人一人の思いに寄り添い笑顔で元気に退院を迎えられるような看護を実践していきたいと考えています。そのため、これからも疾患の勉強はもちろんのこと、退院する患者様のために介護や高齢者福祉について学んでいきたいです。



南館3階病棟 看護師
小松 夏海

4月に当院へ新卒として入職しました。出身は長崎で、鹿児島の看護学校で学びました。4月当初は、慣れない環境に戸惑うこともありましたが、毎日覚えることや基礎的な看護技術を身につけるなど、1日があっという間に過ぎていきます。南館3階病棟の先輩方は、優しく丁寧に色々な事を教えてくださいます。まだまだ未熟な私ですが、患者様から「ありがとう」の言葉をいただくこともあり、大変励みになっています。学んだことを基に、知識・技術をしっかりと身につけ、チームの一員として力になれるように頑張ります。笑顔を忘れず、患者様ひとりひとりに合った看護を提供し、信頼される看護師でありたいと思います。

今年で看護師4年目になります。以前の病院では救急病棟と脳神経外科内科病棟に勤務していましたが、回復期リハビリ目的での入院が多く、急性期の脳神経外科病棟勤務は今回が初めてです。病棟での勤務が始まり、手術件数の多さや入院、ベッドコントロールによる患者様の入れ替わりの多さを感じ、目まぐるしく過ぎる日々に追いつくのがやっとです。しかし忙しい業務の中でも病棟の方々に丁寧に指導していただき、もう一度基礎から学び直す良い機会となっています。脳血管疾患の看護や治療について今後学習し、発症直後や術後の重症患者様も看ていけるようスキルアップを目指していきます。たくさんご迷惑をかけると思いますが、一日も早く病棟の一員として働けるよう精進いたします。よろしくお願ひします。



南館4階病棟 看護師
上地 由理香

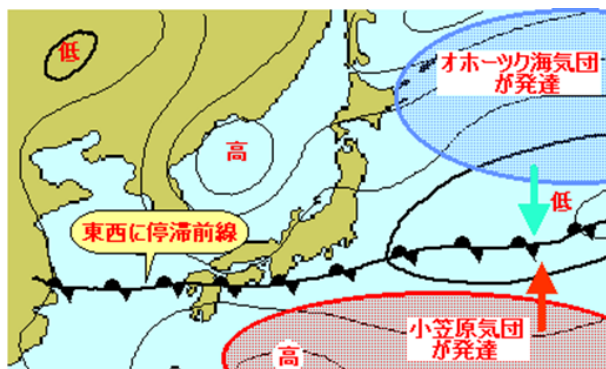
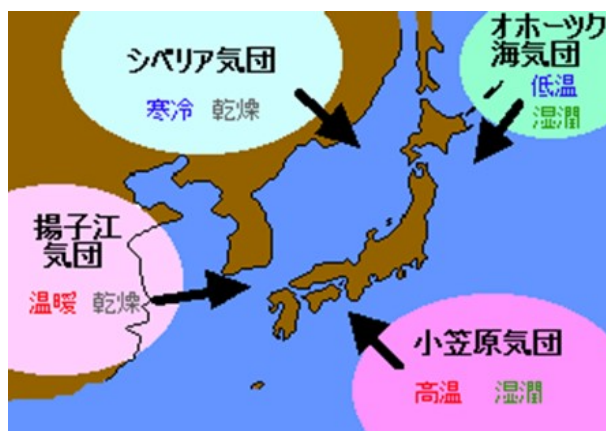


梅雨って？

漸く仕事にも慣れ、5月病も乗り切ったかと思いきや、鬱陶しい梅雨の季節。

良いイメージではないこの季節ですが雨が降らないと農作物が育たなくなったり、水不足で生活に支障をきたしたりします。少しでも好きになるために「梅雨」を理解してみましょう。嫌いな人や苦手な人を理解するためにはまずその人のことを知らなければなりませんよね。ということで今回の「関心」、テーマは梅雨です。梅雨とは春から夏に季節が移り変わる時日本、中国、韓国など東アジアの地域に見られる雨の季節のことで、原因となる「梅雨前線」は中国や韓国にも延びており、同じような気象現象を引き起こします。

この時期は日本付近に梅雨前線が停滞します。梅雨前線の東側では、北に「オホーツク海高気圧」、中国大陸などで作られたシベリア気団があり、それに対抗するように太平洋高気圧などから暖かく湿った小笠原気団と揚子江気団があります(右図上)。梅雨前線付近では、この集まった空気が上昇し、雲や雨を作り出しています。また、梅雨の時期は、北と南の高気圧の勢力がほぼ釣り合うため梅雨前線は、あまり南北に移動することはありません(右図下)。このため同じ地方で雨が降り続くことが多くなります。



なぜこの時期に雨が多く降るのか理解していただけましたか。必要な雨であることは間違いありませんがあまり多く降るのも困りますね。とはいえもうすぐ梅雨も明け暑い夏がやってきます。いつの時期でも体調管理は大切です、自分が病気を患っては患者さんは見れませんよね、医療従事者としての意識をもっていつの時期でも万全の体調で仕事に臨めるよう気をつけましょうね。

編集後記

4月に入職した方々も、早いもので2カ月が経過しましたね。最近、同じ病棟のスタッフや、廊下ですれ違う新入職の方を見ていると表情も柔らかく、慣れてきたのかな、と嬉しくなります。今回、新入職者を特集し、自分が新人だった時の事や、当院へ入職したときの事を思い出しました。悲喜交々でしたが、今では

いい思い出です。読んでいただいている方も4月になるたび、自分の時は～と思い出すのではないのでしょうか？ 一步步、時には3段飛ばしかもしれませんが、自分のペースで前進して欲しいなと思っています。最後になりましたが今回、執筆等ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。

